

# 学術変革領域A 「尊厳学の確立」フォーラム

## 尊厳と憲法学

2025 3/10 (月) 17:00-19:00

[開催形式・会場]

ハイブリッド (対面+オンライン)

対面：中央大学後楽園キャンパス 3号館 14階セミナールーム

[定員]

対面：50名 オンライン：200名

[参加費]

無料, 要申込み 3/5(水) 締切

[申込方法]

以下のURLまたはQRコードからお申込みください

<https://forms.gle/LkPibaxN7bGHJKrz6>



[報告者]

玉蟲 由樹 (日本大学法学部・教授)

憲法規範としての尊厳保障 —ドイツ憲法学における議論を中心に— (仮)

石川 健治 (東京大学法学部・教授)

人間・身体・『人外』 —「被造物の尊厳」条項と憲法学—

伊藤 克彦 (慶應義塾大学商学部・特任助教)

尊厳と人権の関係をめぐるJohn Tasioulasの議論の検討 (仮)

司会：池田弘乃 (山形大学 人文社会科学部・教授)

実定法としての憲法における「尊厳」とはなにか。

「尊厳」は、主として第二次世界大戦後に、まず枢軸国の国々の憲法に登場し、その後、独裁国家の崩壊後、植民地解放後、また体制変換後の国々の憲法に定められるようになってきた。それにつれ、しだいに哲学や思想、倫理としての尊厳から、判例等を通じて固有の「人権としての尊厳」の解釈が明確になってきている。しかし、なお、そこには多くの深潭が潜んでいる。

本フォーラムでは、各報告者が、尊厳と憲法学の提起する課題について多様な観点から検討し、その深潭を明らかにする試みである。

[お問合せ先] 尊厳学と法B01班事務局 [dignityb01@persondignity.com](mailto:dignityb01@persondignity.com)

尊厳学と法B01班ホームページ

<https://www.persondignity.com/dignitystudiesb01/>

本プログラムは、学術変革領域研究 (A)「各国憲法や各国生命倫理法等の比較に基づく尊厳概念の法的分析」(研究代表者法政大学名誉教授 建石真公子)の研究成果の一部です。